

ハクセル美穂子の
ポリティカル・テーマ

Growing
Together!
みんなで創る「いわて」

いわて
県政レポート
2022
冬号

岩手県議会議員

ハクセル 美穂子

MIHOKO
HUXEL

「100年先も
「いわて」が「いわて」であるように、
みんなで創る「いわて」



ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月6日 雫石町生まれ
◎家族/アメリカ人の夫、4人の息子(中3、中1、小6、小3)
◎職業/英会話教室経営
◎趣味/読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
◎学歴/雫石町立御明神小学校[S62卒]・雫石町立雫石中学校[H2卒]・盛岡第四高等学校[H5卒]・岩手大学農学部[H9卒]
◎経歴/平成9年 雫石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選

f ハクセル美穂子オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>



ハクセル美穂子 これまでの活動

2021年
9月

- ◎9月3日
臨時議会が開かれました
- ◎9月28日～10月26日
9月定例会が開かれました

9月定例会は、昨年度の決算を審議する決算特別委員会がありました。私は、会派を代表して決算総括質問を担当しました。岩手県独自の緊急事態宣言発出と盛岡市に限定した時短要請についての決定プロセスのあり方等を質問しました。質問の詳しい内容にご興味のある方は、県議会HP2021年9月定例会決算特別委員会会議録をご覧ください。



10月決算
特別委員会
総括質疑



会派知事要望

2021年
10月

2021年
11月

- ◎11月18日～19日
県内市町村要望調査で
沿岸4市町を訪問

いわて県民クラブ(私が所属する会派です。構成する議員5名)は、毎年、会派所属議員で分担し、県内33市町村を訪れ市町村長さま方と対話の時間を設けて、現場の声をお聞きしています。今年、私が担当したのは、沿岸南部に位置する大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の4市町です。コロナ禍中に発出された岩手県独自の緊急事態宣言の影響について各市町から様々なご意見を頂戴しました。今後の県議会活動に活かしていきます。



市町村要望調査・釜石市にて



市町村要望調査・大船渡市にて

2021年
12月

- ◎11月25日～12月8日
12月定例会が開かれました

12月定例会では、所属するいわて県民クラブが提案した「ガソリン価格高騰時における揮発油税及び地方揮発油税の特例税率適用停止を求める意見書」いわゆるトリガー条項の凍結解除を求める意見書について、会派を代表し、私が賛成の立場で討論を行いました。討HPで閲覧できます。ぜひ、ご覧ください!



12月定例会賛成討論

- ◎12月22日～24日
新産業創出・働き方改革調査
特別委員会現地調査

今年9月、私は新産業創出・働き方改革調査特別委員会の委員長に就任しました。

委員長として12月22日から3日間、「ILC誘致が実現した後にどのような産業展開の可能性があるのか」、また、「介護支援ロボットHAL」や「分身ロボットOriHimeを使った社会実験」について現地調査に赴きました。詳しい内容は、ウラ面コラムでご紹介しています。



JAXA宇宙センターにて



サイバーダインにて

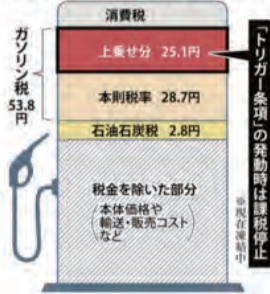
「トリガー条項の凍結解除」を 求める内容の発議案を提案 しました!

県議会には「発議案」という仕組みがあります。県議会は、国に対して、岩手県議会の意見を伝えることができます。これは「意見書」という文書を用いて国の関係省庁へ意見を申し上げるものなのですが、この意見書を国に対して出そう!という決定を県議会の中で議決するために議員から提案するものが「発議案」です。

今回、私たちがいわて県民クラブは、「ガソリン価格高騰時における揮発油税及び地方揮発油税の特例税率適用停止を求める意見書」いわゆるトリガー条項の凍結解除を求める意見書を議会へ提案しました。県議会内で反対の意見があったため、12月定例会本会議において賛成と反対双方の討論が行われ、私は、賛成の立場代表として討論をいたしました。結果的には、賛成多数で可決となったため国に対して意見書を送ることができました。今回提案した「ガソリン価格高騰時における揮発油税及び地方揮発油税の特例税率適用停止を求める意見書」いわゆるトリガー条項の凍結解除を求める意見書は、東日

本大震災津波からの復興を支えるために運用がストップされている租税特別措置法第89条(揮発油税の価格が160円以上になった場合には1リットル当たり28.7円の本則税率を適用するという条項)を復活させて、揮発油税額を25円ほど下げること、小売り価格の低減を図っていくべきという内容の意見書です。

ガソリン1リットル当たりの小売価格の内訳



ガソリンには左の図のとおり合計4種類の税金が課せられています。トリガー条項は、そのうちのひとつ「上乗せ分25.1円」をガソリン小売価格が160円以上になった場合(3カ月継続で)に減税してガソリン小売価格を抑えて国民生活の安定を支えようという仕組みです。今、この仕組みが凍結されているので、この仕組みが使えるように凍結の解除を国に求めました。

厳しい冬がある岩手県民にとってガソリン等揮発油価格の高騰は、大問題です。運輸業・製造業のみならず冬季の農林水産業にも多大な影響を及ぼし、コロナ禍の中でなんとか経済活動を回していこうと懸命に取り組む方々の努力に水を差すものです。県と県内市町村が連携して、

困難を抱える県民の皆さまに対する冬季間の支援策を行っています。引き続きガソリン価格の高騰が続き、これらも十分とはいえない状況になってしまっています。

トリガー条項凍結解除によって減ってしまう税収をどう補てんするのかという視点が足りないという意見もありましたが、反面、原油価格が下がる事によって実質GDPが押し上げられる効果があるため長期的に見れば税収の向上に資するという意見もあります。

政府は、1月27日に1リットル当たり3円40銭の補助金を石油元売り会社に支給しましたが、その効果は限定的です。ぜひ、我々が意見書を提出したトリガー条項の凍結解除についても議論を進めてほしいと切に願っています。

県議会の意見書は、各交渉団体会派が毎度持ち寄り、発議案調整会議という会議において国に対して意見すべき事かどうかを話し合い、毎定例会ごとに数件の意見書を国に提出しています。どんな内容の意見書を国に提出しているのか、県議会HP内で閲覧することができますので、ぜひチェックしてみてください!また、国に対して意見してほしいという国の政策についてご意見等がある場合は、私または最寄りの県議会議員へご相談ください。

こちらから意見書の内容が閲覧できます。



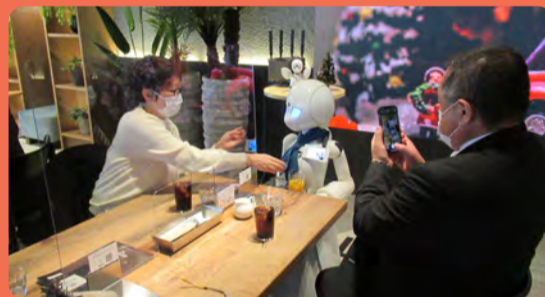
2022冬号コラム COLUMN

サイボーグ時代はもうすぐそこまで! ロボットので、できないができるに変わる時!

昨年9月、私は「新産業創出・働き方改革調査特別委員会」の委員長に就任しました。そして迎えた年の暮れ12月下旬、「新産業創出・働き方改革調査特別委員会」委員長として初めての現地調査に行ってきました。私にとって「新産業といえばロボット!」ということで、今回はロボットの可能性について探る現地調査です。その中でも特に印象深かった東京都中央区日本橋にある「分身ロボットカフェDAWN」と株式会社オリィ研究所での体験を今回のコラムでご紹介します。

「分身ロボットカフェDAWN」は、分身ロボットOriHimeを使い、障がいがある方や引きこもりの方などが遠隔操作で受付業務等をする実験カフェです。カフェの名前にある【DAWN】という言葉は、英語で「夜明け」を意味します。この言葉からもわかるように、これまで働けないというイメージを抱かれ働く機会すら与えられてこなかった障がいのある方々がロボットを介して働くという、重度身体障がい者のQOL(生活の質)の向上を図る新しい働き方を私たちに提案しているカフェなのです。

私たち委員会メンバーも実際にこちらのカフェで昼食を取り、カフェで働く障がい者の方々とロボットを介してお話をしました。注文を取るという仕事は、確かにそこに本人がいなくてもお客様と会話することで成立するのでロボットを介した遠隔操作に適している仕事だなと感じました。メニュー受付の他にも、大きいタイプの分身ロボットOriHime Dを使い飲み物をテーブルに運ぶ仕事も障がいがある方々が担っていました。遠隔操作で働く方々は、瞬時にロボットをログイン・ログアウトで乗り換えて、ご案内や配膳、メニュー受付の業務を行っていました。また、別の一角には、現在病気のために寝たきり状態になっている元バリスタの方が再びバリスタとして働くための分身ロボット【バリスタバージョン】が設置され、バリスタとしての



分身ロボットカフェDAWN

ノウハウを活かして遠隔操作でコーヒーを淹れることができるようになっていました。

これらの分身ロボットOriHimeは、(株)オリィ研究所代表の吉藤オリィさん(以後、オリィさん)が開発されたロボットです。オリィさんは、ご自分も不登校の経験があり、孤独の解消をミッションとして分身ロボットを開発されました。オリィさんが作った分身ロボットOriHimeを使い、彼の秘書として仕事をされていた方が盛岡市の番田雄太さんでした。番田雄太さんは、4歳の時の交通事故により肢体不自由となり、それからずっとベッドの上で過ごしていましたが、少し感覚のあるアゴを使ってパソコンを操作することを覚え、インターネットを通してオリィさんに出会いました。その後、オリィさんが作ったOriHimeのパイロット(分身ロボットOriHimeを操作する方をパイロットと呼んでいるそうです)となり、OriHimeを使ってオリィさんの秘書業務と各地での講演活動(もちろん、OriHimeを介して)に励まれ、障がいを持つ方々のQOLの向上と社会参画の実現に取り組んでこられました。こうしたお二人のこれまでの活動が発展したものが、この分身ロボットカフェDAWNなのです。ここでは、障がいを持つ方々が全国各地からこの分身ロボットカフェの分身ロボットにログインして働くことができます。もちろん、分身ロボットが全ての業務を行うというわけではありません。健常者と障がい者がそれぞれの役割を担いながらカフェという空間の中で一緒に働いていました。

人はいつか老いて、これまでのように体が動かなくなったりします。それでもできる事を自分でやれる環境を作っていくことで、生活の質を保っていくことができるのではないかとこの仮定を、このカフェで実

際に証明していました。まさに近未来のダイバーシティのあり方を体現しています。

また、このカフェで働いていた人の中から、企業の受付業務にスカウトされていった方もいらっしゃるそうです。こちらのカフェは、障がいのある方に働く場を提供するだけでなく、企業や組織の中でどのように障がいのある方を雇用し共に働いていけるのかという課題に対して、新しい視点からのアイデアを提案してくれるところでもありました。たとえ国が法律によって障がい者雇用を企業に義務化していても、寝たきりで自宅から出られない方などにはこれまで働くチャンスがありませんでした。でも、この分身ロボットOriHimeを介することで家から一歩も出なくても人と関わり合い一緒に働くことができるようになったのです。これは本当に素晴らしいことだと思います。

私は、この分身ロボットを岩手県内の特別支援学校にも導入すべきと考えています。分身ロボットを介して、病院から出られず院内で日々を過ごす子どもたちが普通の小学校の授業に参加したり、お友達を作ったり、修学旅行に行ってみたり、様々な社会体験をすることができます。これは、障がいのある子どもたちにとっての利点だけでなく、普通の小学校に通う子どもたちが支援学校の子もたと分身ロボットを介して交流することで、ダイバーシティのあり方を実際の体験から学ぶ事ができます。インクルーシブ教育の一翼を担う素晴らしい取り組みになる事は間違いありません。

今年1月から、分身ロボットOriHimeが、盛岡市都南のふれあいランド岩手に導入されています。ぜひご興味のある方は、ふれあいランド岩手で分身ロボットOriHimeとパイロットさんの活躍を見に行ってみてください! 近未来の私たちの働き方のヒントが隠れているかもしれません!



分身ロボットOriHimeと記念撮影



株式会社オリィ研究所



分身ロボットOriHime

2月24日午後4時から代表質問にハクセル美穂子が登壇!TV中継がありますので、ぜひご覧ください!

